

渡邊 繁雄

農業政策について

**問** 地域ぐるみで効率的な集落営農組織の立ち上げが各地域でなされ運営されている反面、消滅している組合もあるが、今後の方向と見通しはどうか。また、農業委員会は農地部会と農政部会と2部会あったが、なぜ今、1つにしたのか。小泉首相が打ち出している4ha以上を交付金の対象農業者として扱う考えに、どう擦り合わせ、準備をして行くのか。

**答** 農業委員会としても、地域ぐるみの効率的な営農が行なえる集落営農組織に活路を見出し、地域の実情に合った取り組みができるよう、地域で話し合いが進むよう側面的に援助していく。部会を1つにしたのは、委員相互の委員会活動に偏りが生じず、全般が掌握できることから、合併協議会で総会制とした。農村基本計画案が出て、4ha

aと20haという厳しい条件下であるが、小規模農家とは会合を持ち県の助成措置を考え、営農組織を立ち上げられるよう努力する。  
(上田農業委員会会長)

市長の政治姿勢について

**問** 過日のまちづくり懇談会は、多数の市民が参加のもと、市内6ヶ所で行なわれたが、比較的身近な要望、意見が多かったように思える。懇談会をどのように受け止め、今後進めていくのか。また、議員は選挙で当選し、市民のために自分の考えや要望などいろいろな角度から議場で発言するが、市長、当局はこのことをどう受け止め、どのように反映させるのか。

**答** まちづくり懇談会の大きなメリットは、市民の皆様からの積極的な協働のまちづくりに対する意欲と、それぞれの地区の特性を生かしたまちづくりを望まれていると実感している。懇談会での意見、市民アンケートを参考に総合計画を

進め、合併してよかったまちづくりを目指していく。議員の皆様からのご意見、ご提言は真摯に受け止め、対策も是非お願い申し上げ、職員640人総力を合わせて全員野球の精神で市政を推進していく。(竹内市長)

このほかにも、観光行政、企業誘致についても質問しています。

丹下 茂

消防行政について

**問** 消防行政は、日常生活において昼夜を問わず生命と財産を守り、その体制は充実、強化されていないかならぬ。そこで、平成18年3月末で倉敷市との消防の受託業務が終了し、真備出張所が廃止となるが、その後の本市の消防体制はどのようになるのか。また、4月から救命救急士による薬剤投与の救急活動ができるようになるが、その体制づくりはどうか。

**答** 真備出張所の16名の職員が帰ってくるが、本市の条例定数を改正した際の計画により、査察委員会及び本署救急隊の充実を図り、西出張所を消防車、救急車の同時出勤体制を強化し、昭和出張所と連携活動を図っていく。昭和出張所の同時出勤は、総合的な消防力をよく精査し検討して

**答** 真備出張所の16名の職員が帰ってくるが、本市の条例定数を改正した際の計画により、査察委員会及び本署救急隊の充実を図り、西出張所を消防車、救急車の同時出勤体制を強化し、昭和出張所と連携活動を図っていく。昭和出張所の同時出勤は、総合的な消防力をよく精査し検討して

安全・安心のまちづくりについて

**問** 近年、急速に発展したインターネットによる情報の氾濫など、情報化が進み犯罪にも繋がっている中で、情報の選択、判断能力が問われている。そこで、防犯意識の高揚と対応について地域防犯体制のマニキュアルづくりをする必要はないか。そして、事件が発生しにくい通学路の体制づくりを考える時期に来ているが、安全対策は十分できているのか。

進み犯罪にも繋がっている中で、情報の選択、判断能力が問われている。そこで、防犯意識の高揚と対応について地域防犯体制のマニキュアルづくりをする必要はないか。そして、事件が発生しにくい通学路の体制づくりを考える時期に来ているが、安全対策は十分できているのか。



3月末で受託業務が終了する真備出張所